

GLP吉見(埼玉町)が完成

設計=JFEシビル、施工=JFEシビルJV

6.2万㎡のBTS型物流施設



完成したGLP吉見

グローバル・ロジステック・プロパティーズ(東京都港区、帖佐義之

社長)は7日、埼玉町吉見町で建設を進めてきたBTS(ビルド・トゥー・スーツ)型物流施設(専用賃貸物流施設)

「GLP吉見」の竣工式を現地で行った。設計はJFEシビル、施工はJFEシビル・福田組JVが



会見する中西社長(右)と帖佐社長

担当。施設は日本ロジテム(東京都港区、中西弘毅社長)が単独で使用する。

建設地は吉見町西吉見土地区画整理事業地内3街区1、3、4、5の敷地3万3913平方メートル。太陽光パネルも設置し

関越自動車道東松山インターチェンジ(IC)から車で約10分、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)川島ICから約15分と交通アクセスに優れている。規模はS造(ブレース併用ラーメン構造)4階建て延べ6万2281平方

方メートル。天井・間仕切り壁は大きいと見ている」と述べた。

・設備など2次部材の耐震性を確保。浸水対策として電気室を建屋内の2階に配置するなどBCP(事業継続計画)に積極的に対応した。屋上には太陽光パネルも設置した。

記者会見で帖佐社長は「同社の今後の開発の見通しについて「年内に3件の竣工を予定し、数件の新規開発の発表を見込んでいる。老朽化し近代的な設備を採用していない物流施設からの転換需要が見込まれ、開発の余地は大きいと見ている」と述べた。埼玉県内での開発については「県内では複数の土地区画整理事業(産業系)が行われ、行政にも市街化調整区域への賃貸物流施設誘致に対する理解が感じられる。吉見IIになるかどうかは未定だが、積極的な開発を見込んでいる」と話した。日本ロジテムの中西社長は「BTS型施設とすることで、低床と高床を同一施設に設けるなど当社の希望を実現でき、感謝している」と述べた。